

33 明治6年5月19日 菊池長閑宛

(長閑注記1) 第七号 五月十九日認む (長閑注記2)

此度嶋田御伯母様病症追々平愈之趣帰県致候ニ付一簡呈上仕候
先達御注文之府県色分地図差上可申様前便申上候所右ハ藩治時
分之図ニテ大ニ失望仕候間右不悪御承引被成下度候御伯母様ニ
ハ度々御見舞申御世話ニ相成候間菊池エも同様宜敷御謝礼御達
被成下度奉願上候前号申上候書籍二円ニテ調償還仕候間御安心
被下度候夏洋服廉価ニ付学校ニ頼候大概三週後ニハ専門学校相
始可申候実ニ喜敷候得共教科之増加ニハ込居候新築之洋製寄宿
舎も追々出来ニテ来月末頃ニハ移住可致と折角待居候去四日夜
半皇居并太政官焼失被成実ニ恐入へき儀ニ候追々皇恩を報ん為
メ多少献金致候者新聞誌ニ相見得実ニ溥天之下率土之浜海山之
皇恩不載もの無之候得ハ諸府県之人民も識見ある者ハ多少ニ不
拘献金等可致秋と考候一錢ト雖トモ報恩之志を顯ニ足り且新聞

等ニも相記され芳名を国内ニ伝て不朽ニ至へし僻陋之人恐ハ金員之少を慙ト見て或ハ余人ニ彼是云ハル、を厭ひ些少之金を献するとして県庁を煩すハ却て不出ニ愈る抔姑息之思慮を為者も可有之実ニ可惜可歎事也

御尊父様

武夫拜

(長閑注記1)

(朱書)「封書ノ上書東京一ツ橋通開成学校寄留と認め来リ」

(長閑注記2)

(朱書)「六月十五日小学校教則添嶋田ヨリ達し返書此方十四号七月五日付ヲ以郵便出し」